ループス腎炎の成因に関する研究: 抗SSA抗体と腎組織像との関連性

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Nakashima, Akikatsu
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/14825

学位授与番号	医博乙第1071号
学位授与年月日	平成元年11月15日
氏　　名	中島昭勝
学位論文題目	ループス腎炎の成因に関する研究 －抗ＳＳＡ抗体と腎組織像との関連性－
論文審査委員	主査　竹田亮祐 副査　松田　保 中西功夫

内容の要旨および審査の結果の要旨

全身性エリテマトーデス（SLE）患者の流血中には種々の自己抗体が検出され，特にループス腎炎の病因における免疫学的機序の関与が注目されてきた。著者は，抗SSA（Sjogren's syndrome A）抗体のループス腎炎における役割を明らかにするために，新たに抗SSA抗体のELISAを開発した。次いで本法を用い32例のSLE患者について他の抗体を含め検討を行い，腎組織所見との関連性についても詳細な評価を行った。ELISAはガラスビーズを使用し抗SSA抗体のIgG分画を固相化し，それにヒト脾臓抽出物を作用させSSA抗原を固相化した。この固相化抗原に対して100倍希釈患者血清を300μl反応させた後，残存したSSA抗原に対して8000倍希釈ペルオキシターゼ標識抗SSA抗体300μlを反応させ抗SSA抗体を測定した。標準血清として抗SSA抗体単独陽性患者プール血清を使用し，100倍に希釈したものを10^5単位とした。ループス腎炎の組織学的検討は，WHOの分類のほかにAustinらの方法に従ってActivity Index（AI），Chronicity Index（CI），Pathologic Score（PS）をも算出した。被検対象（32例）は，AIにより４以上のものをＡ群（n＝17），４より小さいものをＢ群（n＝15）とし検討した。得られた成績は次の如く要約される。(1)著者の開発した抗SSA抗体のELISAは，従来の測定系に比較し煩雑な抗原精製が不用であり，しかも特異性，感度および再現性（CV＝9.7%）にすぐれ，満足すべき方法であることが示された。(2)抗DNA抗体はＢ群に比較してＡ群で有意（$p<0.05$）に高く，また抗DNA抗体はAIと有意に相関し，活動性病変との直接的な関係が示唆された。(3)抗SSA抗体は，Ａ群において高値傾向を示し，また抗SSA抗体の陽性率は，Ａ群で70.6%，Ｂ群で23.3%とＢ群に比較してＡ群が有意（$P<0.05$）に高かった。(4)Ａ群，Ｂ群両群間で，補体，他の自己抗体の血清値，陽性率について有意差を認めなかった。(5)抗SSA抗体200単位以上のⅠ群（n＝17），抗SSA抗体200より小さいⅡ群（n＝15）において，各種の組織学的パラメーターを比較したところ，Ⅰ群においてAI，CIが有意（$p<0.05$）に高かった。

以上，著者はループス腎炎患者について新たに開発したELISAにより抗SSA抗体を測定し組織学的所見と対比検討し，抗SSA抗体がループス腎炎病変の活動性に関与している事を明らかにした。また本法は，他の膠原病とのスクリーニングに応用できる点で，臨床免疫学に資するものと評価される。